

三通りの童話

(童話漫筆の二)

長

尾

豊

「お話をつくるのはむづかしい。」とアンダーセン
も其の童話の中で書いてゐるやうに、童話の創作
ぐらる、聞いて見るとむづかしいものはなささう
である。人によると殆んど不可能の事であるとま
で言ふ。なるほど言はれて見れば今まで創作らし
い話もあつたが、いづれも舊い童話の焼直し、昔
の型の蒸返しじ、筋や仕組がそれらしくても、ど
うも肝腎の童話らしい氣分が出ない。誰が作つた
か知らないが昔々からいひ継ぎ語り傳へられて來
たものは、多少話歪められたにしろ、とにかく

「時」の試練をへて今日に、残つたものだから、先

づ立派に存在の値打のあるものだと言つても宜し
からう。

ところでさういふ國民童話以外、別にアンダーセンやワイルドなどの流を追ふ創作童話の一派が
ある。誰が作つたか分らない、言はば民族の創作
と言つたやうなものゝ外に詩人文士の書く藝術童
話がある。これは文學藝術として扱はれるのだから、最も高級なものではあるが、世間普通に童話
を兒童のためのお話などと見くびつて読む人は
面喰ふほど高踏的なものだ。童話は兒童のための
ものだけではないと言はれてゐる位なものだ。

創作童話が最も讀む人を面喰はず點は、「童話」

と號しながら少しも「話」を書かないことだ。いかさま「童」らしい所はあるが、「話」がない。下手な散文詩か短篇小説の出來損なひのやうな感じがある。アンダーセンは「畫のない書本」といふお話集を書いたが、又お話のない童話を書いて、

それで人を得心させられるだけの話上手であつた。これは萬人がまねられる技術ではない。とにかく創作童話の多くは道具立てだけ飾つて芝居がいいか、でなければ芝居の筋書だけで芝居を見せようとしてゐる傾きが見える。

勿論さうでないものもあるが、先づ悪い所だけ挙げればそんなものである。

童話の再話

次に國民童話は民話として語り傳へられ、又は書物に書き残された、これらの蒐集や記述も一事業であり、又外國ものを翻譯するのも決して生易しい仕事ではない。昔のままの童話や外國童話を

現在のわが國の兒童のために翻譯するのは、同じ童話でも再話といふ仕事で、今日量から言つたらこれが一番多からうと思ふ。無論、童話でないものも童話とつゝ込みにされて一緒にたに成つてはゐるが。

前の創作にくらべると童話の再話、翻譯は樂な仕事のやうに見えて、其の實決してさうでない。なぜといへば創作童話は兒童ばかりのものでないのだから、先づ子供に分らなくても好いわけだが童話の翻譯や再話したものが、子供に分らなくては問題にならない。ところが其の問題にならないものが決して少なくないのだから困る。

再話の最もいけないと思はれる所は、話の意味がシツカリ擱めてゐない事である。従つて面白味が逃げてしまふ。ただ筋ばかりを傳へる骨がき式で、ゆづくら腰を据ゑて要領よく話すべきものがダラ／＼長いか、ドン／＼端折つてしまふか、話

の長さとか分量とかいふ點について全く考へられてゐないと思はれる。翻譯と言つても其のまま逐字譯を試みたのでは分らないから、分るやうに譯さなければならぬのが、生硬な譯語や、むづかしい言廻しなどがあり、又誤譯ではないが原文と引合はせて読んで見ると、カナリ不用意な譯し落しなどもある。再話となると入れごとは、勝手に抜き差しがあつて、原話と違つたものになつてしまふ。要するにお話として、文學として、童話を扱ふといふ考が足りないのでと思ふ。無論、中にはさうでないものもあるが、數ある児童書、童話集中にはさう言つた類のものが決して少なくなつ。

創作童話のことや、再話家の扱ふ中に童話でないものゝカナリ多いことは前に述べたが、實演童話家の話すものとなると、更に童話ばなれしてゐる。實際、實演家の中に本式の童話を話す人はさきはめて少ない。この事は實演童話家達もさう言つてゐる。多くは「兒童のためのち話」式な義士傳や乃木將軍、その外實話が多い。「實演童話集」といふ本が出た時にも、本式な童話はさきはめて少なく、史談傳記、實話のたぐひが多いので、實演童話集ではなくて、童演實話集だと言つた人もあ

るが、さうではなくてお話口演のことである。創

童話の口演

ここに又實演童話といふ名目がある。ちよつと聞くと話なかばで踊り出しどもするのかと思はれるが、さうではなくてお話口演のことである。創

それは悪い事ではなからうが、お話口演家が童

まれる。

話の名ですべてを蔽つてしまふのは、物が間ちがひ易いと思ふ。それでなくとも創作童話や、雑多な再話で童話が分らなくなつてゐる上に、モウひとつ輪を掛けた實演童話で分らなくするにも及ぶまいと思ふ。聞けば何所やらの母の會では、童話は家庭のものである、宜しく講壇から取返すべしといふ童話取戻しの運動をはじめたとかいふ事だが、實演家が義士傳などを演じ、再話家が講釋種や淨瑠璃本からの怪しげな歴史童話を書いてゐるのは、すでに童話の名前を返上してゐるのも同然であると思はれる。

創作、再話、口演此の三つは童話に取つて大切な仕事で、わたしが今挙げたやうな事は、何れも其の末派末派の、言はゞ餘弊とも稱すべきものかも知れないが、併し、此の渦中に捲き込まれて、童本來の光を見失つてゐる人もあるだらうと危ぶ

母の會

—五月十二日—

五月の第二日曜日を（母の日）と名づけて、歐米各國では、この日は、特に母を憶ひ、母に感謝することになつてゐるが、青山學院内全國母の會本部では、この貴い日を日本人に知らせるため、「毎年五月の第二日曜は母の日として、世界中の心ある人は母に對する謝恩の意を表はすことにしてゐます、皆様もどうか特にこの日にお母さんを喜ばせて下さい」といふビラを日比谷公園や、各學校で配布しその他教會では花を贈つたり、講演會を催したり、大いにこの日を意義あらしめた。